

## グアテマラ内政・外交(2007年9-10月)

平成19年11月  
在グアテマラ日本国大使館

### 1. 概要

(1) 9月9日に実施された大統領選挙・国会議員選挙・全国市長選挙は、若干のトラブルはあったものの概ね平穏裡に終了。投票の結果、コロン国民希望党(UNE)候補とペレス・モリーナ愛国党(PP)候補が、11月の決選投票に進むこととなった。10月にかけて、追い上げ調子にあったペレス・モリーナ候補が、世論調査の結果に後押しされる形で選挙戦を優位に展開し、特に首都圏においてペレス・モリーナ候補の勝利を予測する声が大きくなるなか、全体としては接戦の状態選挙戦も終盤を迎えていった。

(2) 治安の問題は相変わらず深刻で、9月には現職警官2名による殺人事件(5人を殺害)も発生。デ・トレビアルテ内務大臣は、同月、国家文民警察(PNC)長官を罷免し、10月には416名の不良警官を一斉解雇するなど、懸命の取り組みを見せた。

(3) 外交面では、9月、ベルシェ大統領が国連総会に出席、自身最後となる一般討論演説を行った。またこの機会に中米統合機構(SICA)・インド外相会合、グアテマラ・チュニジア外相会合が行われた他、グアテマラ・北朝鮮間で国交樹立の署名式が行われた。我が国との関係では、10月、田中前財務副大臣よりベルシェ大統領に桜の苗木30本が送付・贈呈され、当地主要紙等のメディアもこれを大きく取り上げた。

### 2. 内政

#### <9月>

#### (1) 大統領選挙・国会議員選挙・全国市長選挙

##### (イ) 選挙の実施

9日、大統領選挙・国会議員選挙・全国市長選挙が全国各地2,060ヶ所の投票所で実施された。一部の投票所で開場の遅れ(30分～1時間)や、停電等のトラブルがあった他、4投票所で現市長の再選に反対する住民が投票済み用紙を強奪し焼却するという事件が発生したものの、大多数の投票所では終始平静が保たれ、選挙当局及びOAS選挙監視団・EU選挙監視団等は、いずれも選挙は概ね平穏裡に終了したと評価した(投票率:60.36%)。なお、我が国からも4名がOAS選挙監視団に参加した。

##### (ロ) 大統領選挙の投票結果

大統領選挙では、それまでの各種世論調査で若干低迷しながらも常に他をリードしていたコロン国民希望党(UNE; 中道左派)候補が最多票を獲得したものの、有効投票の 28.24%に留まり過半数に達しなかったため、今回の投票で当選者は確定せず、11 月に同候補と2位のペレス・モリーナ愛国党(PP; 右派)候補(同 23.53%)との間で決選投票が行われることとなった。

#### (ハ) 国会議員選挙及び全国市長選挙の結果(暫定)

選挙最高裁判所(TSE)が行った国会議員選挙及び市長選挙の集計結果(暫定)によれば、全 158 議席中、コロン候補の国民希望党(UNE)が 51 議席、与党国民大連合(GANA)が 37 議席、ペレス・モリーナ候補の愛国党(PP)が 29 議席、リオス・モント退役将軍率いるグアテマラ共和戦線(FRG)が 14 議席、アルス一元大統領率いる統一会派党(PU)が7議席を獲得。前回選挙と同様、過半数を制する党はなく、議会では、来年以降も各党間の激しい攻防が予想される。

#### (ニ) 決選投票に向けた動き

9月下旬に行われた各社世論調査では、軒並みペレス・モリーナ候補(PP)への支持率がコロン(UNE)候補のそれを上回る結果となった(Vox Latina 社でペレス・モリーナ 54.4%、コロン 45.6%、また Demoscopia 社でもペレス・モリーナ 53.8%、コロン 46.2%)。両陣営ともに、他の各党からの支持を求めて働きかけを活発化させる一方で、特に首都圏の市民の間ではペレス・モリーナ候補優位のムードが一気に高まっていった。

#### (2) 治安： 現職警官による犯罪、国家文民警察(PNC)長官の罷免

麻薬組織間の抗争が原因と思われる殺人事件(21 日発生、5名が殺害)の実行犯として 25 日に現職の警官2名が逮捕されたことを受け、26 日、責任を問われたエルナンデス国家文民警察(PNC)長官が罷免された。逮捕された2名は PNC 長官の優秀な身辺警護官であったことから、警察内及び国民に与えたショックも大きかった。デ・トレビアルテ内務大臣は、不良警官一掃のための取り組みを加速化させる意向を明らかにした。

#### (3) 社会保障： 特別老齢年金制度のスタート

年金未払い等により社会保障制度に組み込まれていない 65 歳以上の高齢者(約8万人と推定)救済を目的とした「特別老齢年金法」案については、2006 年4月に可決・成立し、さらに同年 11 月、特別税創設、国債発行及び国民からの寄付金で財源を確保するとした改正法案が可決されたところであったが、12 日、ケツアルテナンゴを皮切りに各県で順次支給(400 ケツアル/月)が開始された。

#### (4) 汚職： 汚職指数(CPI)、グアテマラは 180 ヶ国中 111 位

トランスペアレンシー・インターナショナルが発表した 2007 年の汚職指数(CPI)によれば、グアテマラは 10 段階評価の 2.8 で 180 ヶ国中 111 位。2006 年の評価と比較して 0.2 ポイント改善し

たものの、中米地域ではコスタリカの 46 位(5.0)、エルサルバドルの 67 位(4.0)、パナマの 94 位(3.2)に劣る。なお、ニカラグアは 123 位(2.6)でホンジュラスは 131 位(2.5)。

#### (5)教育：識字率の改善

1日、国家識字教育委員会(CONALFA)が発表した報告書によれば、グアテマラの 2007 年の識字率は 76.03%で、2003 年の 72.51%と比較して、4年間で 3.52%改善した。もっとも、これは人口約 1,300 万人の当国において、15 歳以上の約 178 万人が未だ読み書きのできない状況を意味する。読み書きのできない成人に対しては、CONALFA が識字教育に取り組んではいるが、依然として都市部よりも地方で、また男性よりも女性の間でこの状況は深刻である。

### <10 月>

#### (1)大統領選挙決選投票関連

##### (イ) 選挙戦

大統領選挙決選投票に向けたキャンペーンも終盤を迎え、両陣営とも互いを誹謗中傷しあうネガティブ・キャンペーンには暇がなく、これに対しては主要紙の論調を含め、各方面から批判の声も上がった。他方、国民の間には、決選投票の行方を注意深く見守っている様子が垣間見えるものの、より地元に着目した国会議員選挙と市長選挙が9月に終わったこともあり、大統領選挙に比較的関心が高いと言われる首都圏ですら、やや選挙前の盛り上がりを欠いた。

##### (ロ) 各社世論調査

10 月下旬に実施された各社世論調査では、両者の差は誤差の範囲内ながら、ほぼ全てでペレス・モリーナ候補がコロソ候補をリードする結果となった(Vox Latina 社でペレス・モリーナ 53.0%、コロソ 47.0%、Demoscopia 社でペレス・モリーナ 52.6%、コロソ 47.4%(いずれも有効票のみ計上))。もっとも、Borge&Asociados 社の調査ではコロソ 39.4%、ペレス・モリーナ 36.6% (わからない・無効:24.0%)となり、異なる結果が出た。選挙戦は、接戦状態のまま終わりを迎えた。

#### (2)治安：不良警官の一斉解雇

警察官の汚職(犯罪組織との関わり等)が蔓延する中、デ・トレビアルテ内務大臣は3月の就任以降、警察の機能強化と信頼構築とを目的として不良警官の一掃に取り組んでいるが、11 日、内務省は新たに 416 名の現職警官(警察署長クラスを含む)を解雇した。今回の決定により、この6ヶ月で2,244 名が解雇されたことになる。なお、当国警察は約 15,500 人体制で、また、現在の新人養成システムでは年間約 1,000 人の補充しかできないが、内務大臣は「質の重視」を掲げている。

#### (3)司法：新最高裁長官の選出

1日、最高裁は、13人の判事による互選の結果、オスカル・バスケス最高裁判事を新最高裁長官

に選出した。バスケス新長官は、13 日に就任、2008 年 10 月までの任期(1年)がスタートした。バスケス新長官は、国立サンカルロス大学法学部卒業で、2004 年 10 月より最高裁判事(任期5年)を務めていた。

### 3. 外交

#### <9月>

##### (1) 第 62 回国連総会(於:ニューヨーク)

##### (イ) ベルシェ大統領の一般討論演説

27 日、ベルシェ大統領は第 62 回国連総会において一般討論演説を行った。今回の演説は、政権交替を数ヶ月後に控え、ベルシェ大統領にとって最後のものとなった。同演説の中で、ベルシェ大統領は、1996 年の和平合意と同合意に基づいた国家目標への取り組みにおける国連からのグアテマラに対する多大な支援に謝意を表明しつつ、先般の大統領選挙が概して平穏裡に実施されたことはグアテマラに代表民主制が定着しつつあることの証左であると述べるなど、現政権の内政・外交における成果披露を中心に行った。

##### (ロ) 中米統合機構(SICA)・インド外相会合

国連総会期間中の 25 日、ニューヨークにて中米統合機構(SICA)・インド外相会合が開催された。SICA 側からはローセンタール・グアテマラ外相(SICA 議長国)ほか SICA 加盟各国の外相、インドからはムカジー外相が出席し、開発のための情報技術活用、インドによる各種技術協力等について意見交換が行われた。ムカジー印外相は、グアテマラ、エルサルバドル、コスタリカが近々インドに大使館を開設することを歓迎し、また、来年にはインドで SICA・インド外相会合も開催されることに言及しつつ、双方の協力関係が一層緊密化していることを強調した。

##### (ハ) グアテマラ・チュニジア外相会合

同じく国連総会期間中の 26 日、ローセンタール外相はニューヨークにてアブダッラー・チュニジア外相と会談を行った。両国は昨年と同時期に外交関係を樹立したところであり、今回、両外相は二国間関係の更なる強化に向けて互いに取り組んでいくことで意見が一致した。両外相は、早期に双方の外相訪問を実現することで合意した。

##### (2)「グアテマラにおける無処罰問題対策委員会(CICIG)」

麻薬・人身取引、密輸等の組織犯罪や、これに絡む警察・刑務所・税関・移民局等の汚職に関する捜査・訴訟関連手続等において、当国検察庁を技術的にサポートすることを目的とし、国連との間で設置(来年以降2年間を予定)される「グアテマラにおける無処罰問題対策委員会(CICIG)」について、17-23 日、潘国連事務総長に任命され CICIG 代表に就任したカストレサナ弁務官(スペイン人)が、CICIG 開設準備のため当国を訪問。滞在中、ステイン副大統領、デ・トレビアルテ内務大臣等を表敬訪問した他、当国検察庁や国家文民警察等の関係各方面と意見交換を行っ

た。

### (3) 鈴木新大使の信任状奉呈

19 日、国家文化宮殿での信任状奉呈式において、鈴木大使はベルシェ大統領に対し、同大使の信任状及び四之宮前大使の解任状を奉呈した。ベルシェ大統領は、「日本からの協力は、病院の整備を始めとする保健医療分野、学校建設を始めとする教育分野、及び現在建設中の「和平道路」といった交通インフラ分野など、いずれもグアテマラ人ひとりひとりの生活の向上に大きく貢献するものである。グアテマラ国民を代表して感謝申し上げる。二国間及び多国間分野で相互協力が進むことを期待する」と述べた。

### (4) 北朝鮮との外交関係樹立

26 日、グアテマラは北朝鮮との国交を樹立。右署名式が、国連総会出席のためニューヨークを訪問中のローセンタール外相と北朝鮮 Choe Su Hon 外務次官との間で行われた。グアテマラ外務省は、プレスリリースの中で「グアテマラは、朝鮮民主主義人民共和国の国際社会への参加 (insercion) に貢献できることを願っており、また、朝鮮半島の統一と平和のプロセスを支持する」と発表。現在、グアテマラは 135 ヶ国と外交関係を有する。

## <10 月>

### (1) コンゴ(民)におけるPKO活動

グアテマラ政府は、国連平和維持活動 (PKO) の枠組みで展開中の国連コンゴ(民)ミッション (MONUC) に対し、2005 年3月以降、部隊を派遣しているが、今般、政府は 11 月 12 日に第五次部隊 105 名を派兵することを決定、22 日、ベルシェ大統領及びレイバ国防大臣出席のもとで、同部隊の結団式が行われた。第五次部隊は、将校、特殊部隊 (Kaibiles)、空挺部隊、通訳、看護師等を含む計 105 名で構成される。派遣期間は6ヶ月から1年を予定。現在グアテマラは、国連PKO活動の枠組みで、国連コンゴ(民)ミッションの他、国連ハイチ安定化ミッション (MINUSTAH) へ 114 名 (第五次部隊) の部隊要員・文民警察官を派遣している。

### (2) 中米議会 (PARLACEN) の議長選出

中米議会 (PARLACEN; グアテマラ市に所在) の議長職 (任期1年) については、加盟各国の輪番制で、2007 年 10 月からの1年間はグアテマラ人議員が議長を務めることとなっている。23 日、同議会はフリオ・ゴンサレス議員を新議長に選出した。同議員は当国内では国民希望党 (UNE) の党员。

### (3) 田中前財務副大臣からベルシェ大統領への桜の贈呈

23 日、当国外務省敷地内にて、ベルシェ大統領、ローセンタール外相及び鈴木大使出席のもと、田中前財務副大臣からベルシェ大統領への贈呈品として送付された桜の苗木 (ソメイヨシノ 30

本)の引渡・植樹式典が執り行われた。3月のIDB総会出席のため我が国代表団長として当国を訪問した田中財務副大臣(当時)は、ベルシェ大統領を表敬訪問した際、同大統領が日本の桜に大変な愛着を寄せていることを知り、今回、苗木を送付・贈呈するに至った。当地主要紙等、メディアもこれを大きく取り上げ、日本の親愛なる友人からの贈り物として紹介された。

(了)